

information 情報掲示板

お得なご招待や日々の暮らしに役立つ情報など

オリックス・バファローズ 野球観戦ご招待

観戦チケット、お弁当お飲み物、応援グッズをご用意いたします。また、球場までの交通費をオリックス財団で負担いたします。ご来場いただく方には、別途集合場所など詳細案内をお送りいたします。

日時： 7月28日(土) 14時～ 日本ハム戦
7月29日(日) 13時～ 日本ハム戦

場所： 京セラドーム大阪球場

ご招待者：東日本大震災により関西圏に避難されている方

応募方法：①応募用紙に必要事項をご記入のうえ
オリックス財団事務局へFAXまたは郵送
②電話でオリックス財団へ直接申込

申込締切：6月15日(金)

問合せ先：オリックス財団事務局
担当：藤田 境 中尾
東京都港区芝 4-1-23 三田 NN ビル
電話：03-5419-5471
FAX：03-5419-5903
月～金 9:00～18:00

夏休み文楽鑑賞のつどい へご招待

大阪府生協連が毎年夏休みに開催している「夏休み文楽鑑賞のつどい」にご招待します。文楽は大阪発祥の伝統芸能です。親しみあるキャラクターが登場する演目や、人形の動かし方などの解説もあり、子どもさんが観てもたいへんわかりやすくなっています。この夏、お子さんと一緒に文楽を観てみませんか。

日時： 7月27日(金)
開場 10:00 開演 10:45
終演 13:00(予定)

場所： 国立文楽劇場 演目： 同封のチラシ参照

入場料： 無料 定員： 50人

対象： 東日本大震災により関西圏に避難されている方
4才以上 ※3才未満のお子さんは入場出来ません。

＜申込方法＞
大阪府生活協同組合連合会 06-6762-7220 まで
受付期間：5月28(月)～6月15日(金)
受付時間：AM10時～PM5時
※土日は除きます。
※定員 50人
(先着順、定員になり次第受付を終了いたします)

ご質問、ご連絡等は...



IMONIKAI バックナンバーもお送りできますので
ご希望の方はご連絡ください。

避難ママの元気アップセミナー

スクラップブックング
～思い出作りをしよう～

一時保育
あります

避難生活、ツライという想いだけで過ごしていませんか？
今の避難生活も私たちの大切な人生の一部。子どもや家族の写真をデコレーションして、今の自分たちの姿を少し立ち止まって見つめてみましょう。故郷の家族、友達へのプレゼントにもピッタリの素敵な作品ができます。

日時： 6月9日(土) 10時～12時

場所： クレオ大阪中央
(大阪市立男女共同参画センター中央館)
地下鉄谷町線「四天王寺前夕陽ヶ丘」駅 徒歩3分

対象： 東日本大震災により関西に避難している女性とその子ども

定員： 15人 材料費： 1人500円

申込： HP、はがき、電話、FAXにてお申し込みください
HP：http://www.creo-osaka.or.jp
電話：06-6770-7200
FAX：06-6770-7705
はがきの宛先他詳細は同封のチラシをご覧ください

主催：大阪市立男女共同参画センター中央館
共催：避難ママのお茶べり会

インテリア書のワーク ショップを開催します

福島在住の“旅する書道家”千葉清藍と“一撮入魂のカメラマン”なにわのプレッソンの二人展『photo&sumiten2012“縁”』が、引き続き大阪でも開催されることになりました。今回もインテリア書のワークショップを開催いたしますので、ふるってご参加ください。筆を持つのが久しぶりな方、初心者の方大歓迎です。福島の大自然の中で生まれた書作品の中で、あなただけのインテリア書を作ってみませんか。

『photo&sumiten2012“縁”』

開催期間： 5月26日(土)～6月2日(土)

場所： 桃ヶ池公園市民活動センター
JR阪和線「南田辺」駅 徒歩5分
地下鉄谷町線「田辺」駅 徒歩7分
TEL 06-6628-9046

インテリア書ワークショップ

日時： 6月2日(土) 9:40～11:10

材料費： 1000円 定員： 20人
※当日定員に達した時点で締め切らせていただきます

申込： メールまたはお電話にてお申し込みください
E-mail： info@seiran-c.net
電話： 06-6765-4041
(大阪市ボランティア情報センター)

3.11以降の内部被曝とこころのケア 振津かつみ先生と胡桃澤伸先生のお話会

先生を囲んでおしゃべりタイム(質疑応答)もあります！
17:40より開場可能です。
放射能の影響・内部被曝が心配な方。避難後の生活について不安を抱えている方。精神的に不安な日々を過ごしている方。是非ご参加ください。
※定員になりました場合、ご了承ください。
※託児はございませんが、お子様も一緒にどうぞ！

日時： 6月8日(金) 18:00～21:00

場所： 市民交流センターすみよし南 集会室203
市バス4・63・65系統
「市立大学前」バス停下車すぐ
JR阪和線「杉本町」駅 徒歩7分
地下鉄御堂筋線「あびこ」駅 徒歩16分

参加費： 600円(資料代含む)
※小学生以下無料

申込： Victory迄にメールをお送りください
kansaifuture0303@yahoo.co.jp
(お名前・参加人数・電話番号)

主催・問合せ： 関西Futureコミュニティ Victory迄
kansaifuture@yahoo.co.jp

社会福祉法人大阪市社会福祉協議会 大阪市ボランティア情報センター

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町 12-10 大阪市立社会福祉センター内
Tel 06-6765-4041 / Fax 06-6765-5618
＜利用時間＞
月～金曜 9:30～20:30 土曜 9:30～17:00
＜休館日＞
日曜・祝日・国民の休日及び
年末年始(12月29日～1月3日)
E-mail: ocvic@osakacity-vnet.or.jp

東北と大阪を繋ぐ情報紙

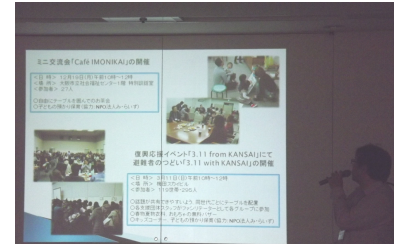
第12号：平成24年5月

IMONIKAI
いもにがい

発行 社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会
大阪市ボランティア情報センター
住所：〒543-0021
大阪市天王寺区東高津町 12-10
大阪市立社会福祉センター内
電話番号：06-6765-4041
FAX: 06-6765-5618

協力 大阪弁護士会
大阪市各区社会福祉協議会

大阪府下避難者支援団体等連絡協議会 立ち上げ総会が開催されました



このたび、大阪府内に県外避難されている方々を支援している団体が集まり連携を強化していくための組織が結成され、その立ち上げ総会が5月12日(土)、大阪市立社会福祉センターで行われました。
当日は46団体・71人の方が出席され、それぞれが昨年携わってきた支援について、また、今後取り組んでいきたい、重視していきたいことを報告し合いました。立ち上げ総会には避難当事者の団体も多く出席され、これからの避難者の課題点や必要となる支援についてお話しいただきました。

大阪府外からも東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)代表の栗田暢之さん、コープあいち・愛知県被災者支援センターの向井忍さんにお越しいただき、全国規模での支援活動の動きなどについてお話しいただきました。

また様々な団体だけでなく、自治体からもオブザーバーとしてご参加いただけることになりました。行政とも連携を図ることで、支援の輪をさらに広げていけると思います。

現在の協議会加入団体数は56団体。第1回目の連絡会議を7月13日に開催し、今後の運営方針等について話し合いを進めていく予定です。

東日本大震災支援に関する 勉強会が開催されました

5月13日(日)、大阪市社会福祉研修・情報センターで、大阪医療ソーシャルワーカー協会による東日本大震災支援「プロジェクトーi」の勉強会が開催されました。大阪医療ソーシャルワーカー協会では、以前から宮城県石巻市での支援活動をされており、今後は県外避難者の支援にも取り組むために定例で勉強会を開催しています。今回はご自身も福島県いわき市からの避難者であり、「関西県外避難者の会 福島フォーラム」を立ちあげて活動されている遠藤雅彦さんに、ご自身の被災体験についてお話しいただきました。

遠藤さんは、原発事故の影響を懸念している避難者が健康相談を受けられるよう、避難者に放射能による健康被害を研究している医師を紹介する活動をされています。放射能被害は身体面とメンタル面の両方のケアが必要になってくるといいます。遠藤さんは「医療に従事されている方々に、まずは放射能被害について関心をもっていただければ」とおっしゃっていました。



講演に来ていただいた遠藤さん



原発賠償ADR（原子力損害賠償紛争解決センター）での和解解決事案について

5月7日に、関西からも、原発賠償ADR（原子力損害賠償紛争解決センター）に対して、集団での一斉申立がなされたことは、報道などでご存じのことと思います。その後の弁護士会や弁護団への反響も大きく、京都や兵庫でもまもなく集団一斉の申立の準備が進んでいますし、大阪からの第二弾の集団申立も準備しています。

今回は、すでに福島や東京のADRに申し立てられた事案の中から、東電と合意し、和解解決になった例が文部科学省のHPに次々と公開されておりますので、その中から一部をご紹介します。

○南相馬市小高区の住民が、慰謝料について、通常の範囲の生活費の増加だけでなく、要介護の母親との別離、二重生活による増加を含めて、当初は月15万円、その後は月12万円の慰謝料を認めた事例があります。

○いわき市の指定区域外の住民につき、慰謝料とは別に、避難費用及び帰宅費用として金約19万円や就労不能損害金約30万円を認めた事例があります。

○南相馬市居住の両足に障害のある方が、避難により通常を超えた生活費増加として6万円、最終的な移動費用15万円、精神的損害として身体障害の個別事情による増加を含んで月あたり15万円あまりが認められた事例があります。

○福島県の指定区域外の地域で製造業を営んでいた方が、当初6か月の営業損害として、約1000万円の賠償を受けることになった事例も生まれています。

○いわき市で水産物加工品の製造販売業を営んでいた方が、その風評被害を含む損害として、1億1300万円の損害と半製品の処分費1000万円や外装フィルムの変更代などにつき賠償が認められた事例もあります。

○また、福島県外ですが、日立市の住民が、観光業を営む勤務先を解雇されたとして、9か月の就労不能損害126万円を受けることになったものがあります。

このように、ADRでの和解は、損害賠償の基準としては、避難者の被害の実態に照らせばまだまだ低い水準ではありますが、国の示した中間指針やその追補よりは、高額な水準を認め、賠償項目も柔軟になり、区域外の避難者についても慰謝料以外の一定の具体的賠償を認める傾向にあり、申立をして活用する価値があると思います。引き続き、HPでも公開事案に注目し、大阪弁護士会や関西弁護団にもご相談ください。

原発事故被災者支援関西弁護団ご連絡先
(TEL) 06-6362-9615
(FAX) 06-6362-5143
弁護団事務局長
大阪共同法律事務所 弁護士 白倉典武

旭化成商事の皆さんの震災ボランティア活動報告

4月12日～25日まで、旭化成商事の新入社員の皆さんが、社会貢献活動の一環として、東北で被災地支援活動を行いました。ボランティア情報センターでは、前後の研修や期間中のフォローなどを通じてサポートしました。現地では、岩手県遠野市を拠点に沿岸各地の支援活動を行っている「遠野まごころネット」さんが運営するセンターをベースに様々な活動をされました。

参加者の想いは・・・

今回、自身も初となるボランティア活動に参加させて頂きました。現地入りし、まず感じた事は、テレビの前で見る映像と実際に見る光景とでは、かなりギャップがあるということでした。自分の目で見た現地の状況は、とても信じ難く、言葉を失ってしまう程のインパクトがありました。テレビで現地の映像を見る機会はあっても、本当の意味で現地を「知る」ためには、現地を訪れ、自分の目で見たり、聞いたりしなければわからないことなのだと、改めて感じさせられました。

岩手県遠野市を拠点に活動する「遠野まごころネット」を拠点に二週間滞在し、沿岸地域で様々な活動をさせて頂きました。中でも印象的だったのが、わかめ加工のお手伝いでした。迎えて頂いた漁師の方々は、自分達も被災し、会社が流されたり、家が流され、仮設住宅に住まわたりしていました。そのような状況にも関わらず、現場は活気に溢れ、元気と笑顔が絶えない雰囲気の中で仕事をされていました。

震災から一年が経った今でも、まだ立ち直れない方もたくさんおられると思います。僕個人がその気持ちを分かち合うことは到底できないことだとは思いますが、実際に現地を訪れ、この目で見たことで、想像を絶するような出来事がこの場で起こったということを、知る事ができたと思います。その中でも、漁師の方々のように、前を向き、歩き始めている方々を見て、人間は強く、ど

んな困難にも打ち勝っていける生き物だということを、改めて感じる事ができました。また今回、実際に現地で活動をさせて頂けたことで、今回の震災について、改めて考える機会を頂きました。現地から離れて住んでいる私達こそ、今回の震災の事を決して忘れてはいけなと思います。そして活動を終えた今後も、現地の方のために、自分に何ができるのかを、考えていきたいと思うようになりました。

(旭化成商事株式会社 スポーツ衣料営業部 日名田城宏)



↑参加者の皆さんによる大阪に戻られてからの振り返り会。今回の経験を踏まえて「今後も自分のできることをやっていきたい」との本音の言葉がたくさん聞かれました。

3.11 from KANSAI で作成した鯉のぼりが寄贈されました

震災から1年となる3月10日・11日に開催された震災復興応援イベント「3.11 from KANSAI」において大阪府遊技業協同組合が企画した『大遊協スマイルプロジェクト 東北の空に元気を!鯉のぼりを届けよう!』で作成した鯉のぼりが、岩手県、宮城県、福島県の3県へ寄贈されました。子どもたちによってつけられた手形のペイントが鮮やかな鯉のぼりは、復興への願いを受けて空を悠々と泳いでいました。



宮城県では白石市の材木岩公園で掲揚されました。手形のペイントは200匹の鯉のぼりの中でも一際映えます。同時期に公園内で開催された「春の検断屋敷まつり」でも多くの方にご覧いただけました。



岩手県では大船渡市のリアスホールで展示されています。ここは震災直後には270人の方が寝泊まりする避難所にもなっていました。海をイメージしたデザインのリアスホールとも相まって、まるで荒波の中を泳いでいるかのようです。